

あとがき

和泊町は、昭和五十五年五月に町政施行四十周年を迎えた。これを機会に記念事業が企画され、いろいろな事業があげられたが、中でも町誌刊行ということが冒頭にとりあげられた。

このことは、真に当然というべきであろう。というのは、和泊町にはまだ町誌と銘打ったものがなかったからである。むしろ遅過ぎた感さえしたくらいである。

しかし、町誌と銘打ったものはないが、それに代わるものとして、郷土先輩方の蘊蓄^{うんそく}を傾けた貴重な研究の玉稿と尊い労作に基づく「沖永良部島郷土史資料」というA五版四百二十ページにのぼる、質量ともに重厚な書冊のあることは、すでに周知のとおりである。これは、昭和三十一年に初版刊行され、昭和四十三年に明治百年記念事業の一環として改訂増補されたもので、沖永良部島に関する唯一無二の調査研究資料であったのである。

改めて町誌刊行となるにしても、この「沖永良部島郷

土史資料」を主軸として稿を進めねばならないことは、だれしもが認めるところであり、委員一同もそのように協議し合ったのであるが、それにしても、さらにこれに追加せねばならぬものも相当あることが予想されたので、それを一冊の町誌だけに収録することは到底無理であると思ひ話し合いの結果、思いついて「民俗編」と「歴史編」とに分けることにしたのである。

民俗とひと口に言っても、人民の風俗、民間の習俗、伝承と、広範にわたる。中には黒潮が北に運んだもの、すなわち、明らかに南の文化と思われるものもあれば、それとは逆に大和文化が南下している事実も、また否定できない。

これら南北二つの文化の接触点が、奄美を中心として南北に連なる島々であるといわれている。琉球文化の北限といわれ、大和文化の南限ともいわれている沖永良部島の特色を知るためにも、別冊にして詳記した方がよろうと判断されたのである。

昭和五十五年七月、編纂委員の委嘱があつたので、九月に編纂分担（同時に執筆分担）を内容（章や節）にしたがい、次のとおり決定した。

第一章 地誌概観	伊集院健・橋口文雄・永吉敏人
第二章 生業	
第一節 農業	前田義村・山下堅四郎
第二節 林業と狩猟	
第三節 漁法	喜坂三千春
第四節 副業	前田義村・山下堅四郎
第五節 労働、慣行	永吉 毅
第三章 衣食住	
第一節 衣服	日置ミネ・秋葉ミヨ
第二節 食事	日置ミネ
第三節 生活用水	玉起寿芳
第四節 住居	永吉敏人
第四章 人の一生	
第一節 婚姻	永吉敏人
第二節 出産	日置ミネ
第三節 年の祝い	日置ミネ
第四節 葬制	永吉 毅
第五節 族制	永吉 毅
第五章 年中行事	永吉敏人

第六章 信仰	谷元義男
第七章 民間療法	谷元義男
第八章 沖永良部語について	和住一郎・永吉 毅
第九章 口承文芸と芸能	永吉敏人
第十章 随想 論文 寄稿等	
写真	佐々木鉄雄
あとがき	永吉 毅

右のように延べ二十五人に対し、実人員十三人の執筆者が決定したのである。その内訳は、役場職員六人、退職課長一人、定年退職教員六人である。これで見てもお分かりのように、専門家はいなく素人ばかりである。

このように、執筆者が決まったので、資料収集についてや、また文体、用語、表記、記号等々の細かい執筆要領を定め、それにしたがってよいよ執筆が始まったのであるが、それ以後も度々連絡会をもち、共勵、切磋琢磨することを怠らなかつたつもりである。

原稿はできしだい編集委員会（甲斐不二男先生 永吉毅氏、玉起寿芳氏、谷元義男氏、伊勢達一氏、原稿執筆者）をもって、詳細に検討した。文体、用語の指導、な

らびに清書については、竹玉寛氏、宗利武氏、東一之氏、村山英二氏の指導協力を受けたが、これらは素人ゆえに大事をとったということになろう。

このように、いろいろ配慮したつもりであるが、くり返し述べているように素人ばかりの編集員であるだけに、不備な点が多々あると思う。その点についてはご指導をお願い申し上げたい。

執筆してくださった皆さんはもちろん、資料を提供してくださった多くの方々のご協力に感謝申し上げますものである。

わけでも写真の提供については、「九学会連合奄美大島協同調査委員会」の昭和三十一年と昭和三十三年の三か年間にわたる、貴重な調査資料を提供していただいた芳賀日出男氏ほか委員の方々のご厚意に深く感謝の意を表したい。

終始懇切ていねいにご指導くださった甲斐不二男先生に深く感謝申し上げて、あとがきを終わることとする。

昭和五十九年十一月二十日 永吉 毅



和泊町誌編集委員

(枠内右から)	東 一之
佐々木鉄雄	橋口 文雄
伊集院 健	
前田 義村	(下段右から)
重信 初雄	喜井 利一
前田 精造	甲 東哲
宗 昇	永吉 毅
中田 喜勲	甲斐不二男
	竹 王寛
(上段右から)	日置 ミネ
伊勢 達一	玉起 寿芳
村山 英二	谷元 義男
喜坂三千春	
宗 利武	ほかに
大山 安弘	山下堅四郎
和 住一郎	永吉 敏人

和泊町誌 (民俗編)

印刷 昭和五十九年十二月一日

発行 昭和五十九年十二月二十日

編集者 和泊町誌編集委員会

鹿児島県大島郡和泊町教育委員会

(電話〇九九七九—②—〇〇〇九)

発行者 鹿児島県大島郡和泊町長武田恵喜光

発行所 鹿児島県大島郡和泊町教育委員会

振替口座 鹿児島④一六一九〇

印刷所 渕上印刷株式会社

鹿児島市南栄三丁目一